

坂の上通信

令和四年十月三十一日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

3年ぶり修学旅行

四日間の旅 行き先は東京

一足先に中間試験を終え、10月4日(火)から7日(金)までの4日間の日程で、2年生は修学旅行に出かけた。新幹線の中ではカードゲームをしたりし

て、東京駅に着くまでの約4時間の長旅をそれぞれ楽しんだ。到着後は、1・2組は成田山新勝寺、3・5組は東京ドイツ村、4・6組はマザー牧場を訪れ



東京ドイツ村でアトラクションを楽しむ2年生たち

学校の「顔」にインタビュー



今回は、外国語科の岡田先生にインタビューを行った。

「なぜ先生になろうと思ったのですか。学校の先生が好きで、きましたか。」

尊敬していたので、教師になりたいと思いましたが、英語が一番得意だったので、英語の先生になりました。

「修学旅行はどこに行きたいですか。」

「美高生にひとこと」
学校が好きな人が増える嬉しいです。

中学の修学旅行はUSJで、人生初のUSJでした。京都の金閣寺や清水寺にも行きました。高校は伊豆半島で、カヌーを体験しましたが、酔って制御不能になり、クルアの男子に衝突してしまいました。

成田山新勝寺では重要文化財に指定された多くの御堂を周った。成田山新勝寺といえば節分の日に著名人たちが豆まきをするのが有名である。また、マザー牧場ではカピバラやアヒル、牛などの動物たちとふれあ



成田山新勝寺(写真上)でお参りを生徒(下)



い、乗馬体験をした。牧場ならではのアイスも食べた。マザー牧場は季節ごとに咲いている花が違うので、お目当ての時期を狙って行くのも良い。知らずにお楽しみに行くとお楽しみ方の一つである。そして、東京ドイツ村では芝せり、スワンボート、空中ブラン

コ、ジェットコースターなどの乗り物を楽しんだ。また芝せりはくねくね曲がり、思ったより難しく苦戦したようだ。それぞれ楽しんだあとはホテルに帰った。今回宿泊したホテルはウィラフォンテーヌ東京有明というホテルだ。部屋からは東京タワーが見えた。

二日目

二日目は東京デイズ二日だ。修学旅行の目玉でもあるこの日の天気予報は、昼頃から雨だった。この日に限り、私服用が許可されていたが、十月は天候がコロコロ変わりやすく不安定なので、生徒達は服装選びに苦労していた。行きのバスの中では天気心配をしたり、どのアトラクションに乗るのかなどを話し、賑わっていた。デイズ二日シーに到着し、集団写真を撮ったあとは20時まで自由行動となり1日中デイズ二日シーを満喫した。デイズ二日シーが一番怖いと言われているアトラクション、「タワー・オブ・テラー」は今回メンテナン中でなかったため、乗ることができなかった。それ以外のアトラクションはどれも混雑しており、特に人気のアトラクション「ソアリン」は100分待ちだった。食べ物のワゴンなども多く用意されていた。また、パーク内の建物や街並みの雰囲気が素晴らしく、夜はまたひと味違った綺麗な景色を堪能した。帰りのバスではそれぞれ個性のある力チューアトラクションに乗ったか、何を買ったかなどのお話で盛り上がりつつあった。一日中小雨が降っており肌寒かったが、天気などあまり気にせず、デイズ二日シーを思う存分楽しんだ。

三日目

三日目は進路別研修だ。事前に行きたい場所を決めマイテーマを設定し、研修を行った。ホテルを出発し、まず横浜国立大学に向かった。マイテーマに対する答えを見つめるため二時間程度見学したのち四十分かけてバスでお台場へ向かった。球体が特徴的なフジテレビ本社へも行った。約一時間お台場周辺を散策し、お昼ご飯も済ませたあと三十分かけて早稲田大学へと向かった。大学内にある博

物館などを二時間半見学しホテルに帰った。また、研修先がグリコだった人達はパピコをもらったようだ。各々の進路に向きあう時間となった。

四日目

最終日、一・五・三・六組は浅草、二・四組は上野を訪れた。雷門の前で記念撮影をし、その後周辺を散策した。浅草寺ではおみくじを引き、周辺でお団子やモンチカツなどを食べた。お団子も洋風なお団子など様々な種類があり、どんどん進化している。浅草のように毎日がお祭りのような場所は珍しい。

横丁へ行き小籠包を食べた。焼き小籠包というものもあり、蒸した小籠包とは一味違う美味しさがある。帰りの新幹線ではお

屋ご飯を食べたが、みんな疲れ切っており、新幹線の中は本当に行きと同じ人達が乗っているのかと思うほど静かだった。



早稲田大学



浅草の雷門(写真上)と、買い物を楽しむ生徒達(下)



美・鈴・鈴・鈴

旅から帰ったあとは疲れが抜けずにぐっすりしてしまおうもいるのではないだろうか。今回はなぜ旅行は疲れのかを調べた。▼疲れの理由を端的に言えば、慣れないことをするからである。旅行疲れには身体的な疲れと精神的な疲れがある。身体的な疲れは、無意識に普段よりも多く歩いている、大きな荷物を持って歩くことが多い、といったことが原因だ。また気疲れといった精神的な疲れは、相手が原因だ。同行した人に気を使いつづたり、初めての土地や初めて会う人が多く新鮮なところばかりなので、情報量が多く疲れてしまうのだ。▼このような疲れをとるのに効果的な方法は寝ることだ。とにかく寝る。これは普段の生活でも同じことだ。授業中寝ずに授業に集中するためには夜しっかり寝ることが大事である。そうすることで日常的な疲れも取れるのではないだろうか。元気でいることが一番である。普段から体調管理に気をつけたい。(三戸夏弥)

編集後記

引き続き部員を大募集しています。お気軽にご相談ください！